

情報連絡員報告総括表（平成27年9月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食料品		3	1		4		1	2	1		3	1		2	2		3	1		4			3	1		2	2
	繊維工業	1	1	1		3		1	2			2	1	1	1	1		2	1	1	2			3			2	1
	木材・木製品			1			1		1				1			1		1			1			1				1
	紙・紙加工品			2		2			2			2			1	1		2			2			2			1	1
	印刷		1			1			1			1				1		1			1			1			1	
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	3				3			3			3		1	2			3		2	1			3		1	2	
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1		1			1			1				1
	一般機器			3	1	2			1	2		2	1		1	2		2	1		1	2		2	1			3
	電気機器			1		1				1			1			1				1		1		1				1
輸送機器		1			1			1			1				1				1		1		1				1	
その他																												
	小計	4	6	10	1	17	2	2	14	4		15	5	2	7	11		15	5	3	9	8		18	2	1	8	11
非 製 造 業	卸売業		1	1	1	1		1	1			2			2			2						2			1	1
	小売業	1	2	3		6		3	2	1		4	2		4	2		4	2					5	1		3	3
	商店街	1				1			1			1		1				1						1			1	
	サービス業		4	1					5			5			4	1		4	1				1	4			5	
	建設業		2	2					4			3	1		3	1		3	1					4			3	1
	運輸業	1							1			1		1				1						1			1	
	その他		1						1			1			1			1						1			1	
	小計	3	10	7	1	8		4	15	1		17	3	2	14	4		16	4				1	18	1		15	5
	合計	7	16	17	2	25	2	6	29	5		32	8	4	21	15		31	9	3	9	8	1	36	3	1	23	16

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(平成26年9月～平成27年9月)

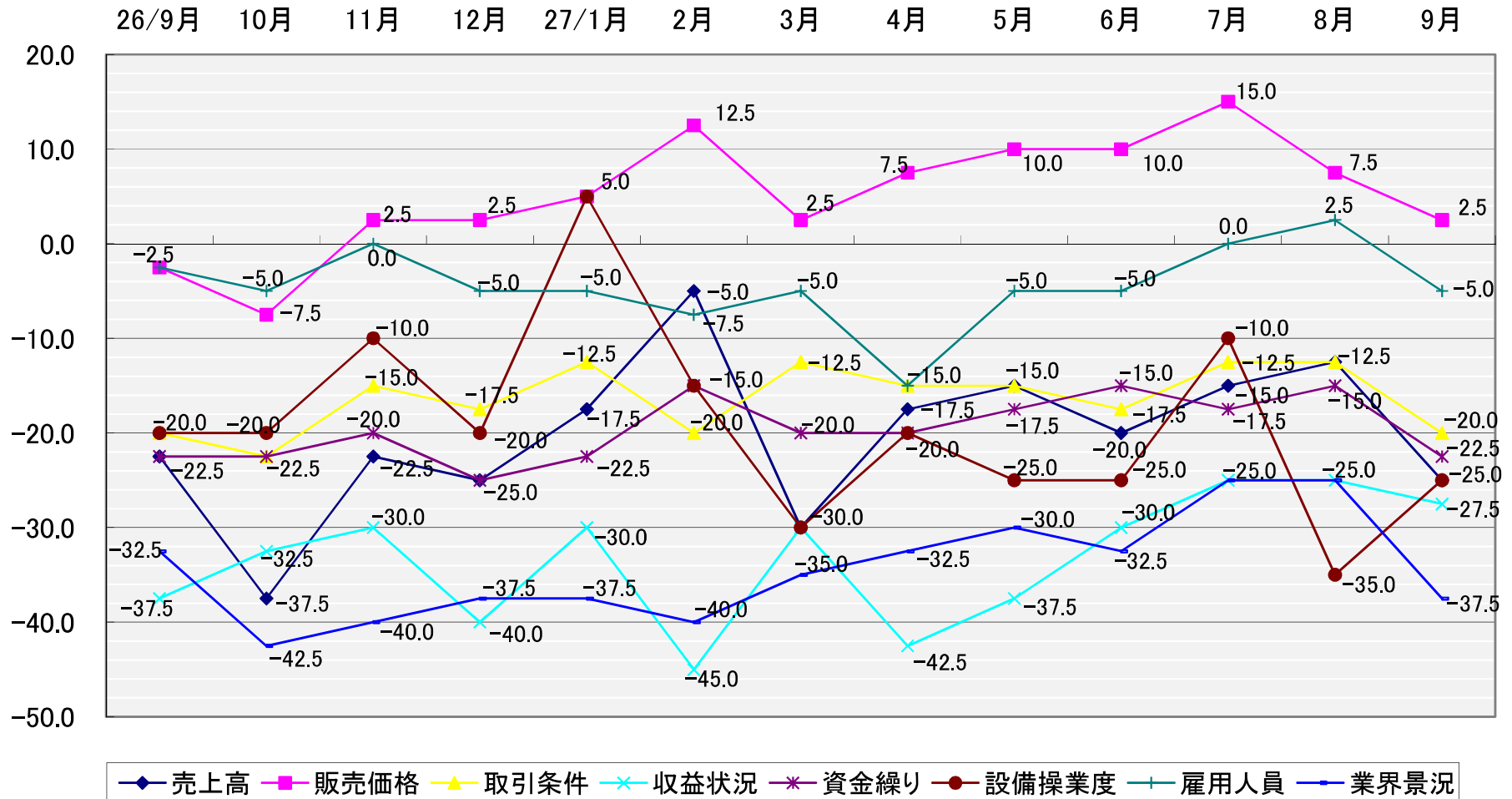
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	26/9月	10月	11月	12月	27/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	増減
売上高	-22.5	-37.5	-22.5	-25.0	-17.5	-5.0	-30.0	-17.5	-15.0	-20.0	-15.0	-12.5	-25.0	-12.5
販売価格	-2.5	-7.5	2.5	2.5	5.0	12.5	2.5	7.5	10.0	10.0	15.0	7.5	2.5	-5.0
取引条件	-20.0	-22.5	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-12.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	-20.0	-7.5
収益状況	-37.5	-32.5	-30.0	-40.0	-30.0	-45.0	-30.0	-42.5	-37.5	-30.0	-25.0	-25.0	-27.5	-2.5
資金繰り	-22.5	-22.5	-20.0	-25.0	-22.5	-15.0	-20.0	-20.0	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-22.5	-7.5
設備操業度	-20.0	-20.0	-10.0	-20.0	5.0	-15.0	-30.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-35.0	-25.0	10.0
雇用人員	-2.5	-5.0	0.0	-5.0	-5.0	-7.5	-5.0	-15.0	-5.0	-5.0	0.0	2.5	-5.0	-7.5
業界景況	-32.5	-42.5	-40.0	-37.5	-37.5	-40.0	-35.0	-32.5	-30.0	-32.5	-25.0	-25.0	-37.5	-12.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	漬物	原材料費が上昇して、製造に要する原価等を押し上げる要因となっている。また、量販店からの価格低減の要求も強く、各項目ともやや低い状況となっている。
		醤油味噌	10月23日（金）～25日（日）に『三重しょうゆ街道』という県内の街道沿いの醤油蔵を紹介した商品展示・試食・即売会がイオン東員店で開催される。『しょうゆの知り博士の出前授業』が全国の小学校で開催されて10年目となるが、10月、11月はピークで県内でも25校で開催する。全国では年間500校を目指している。
		豆腐	燃料、ガスは値下がり気味であるが、原材料の大豆は依然として高値で製造原価を押し上げている。
		麺	伊勢・志摩サミット開催に向けて、伊勢うどんのピーアールに取り組んでいく。業界の品質向上を目指し、各社の対応を統一していけるように取り組んでいく。
	繊維工業	テントシート	マイナンバー制度の研修会を開催し、制度の説明、ポイントとなる点などを、質疑を交えて実施した。業況については9月頃から悪くなってきているように思われる。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	お歳暮向けの段ボールが動き始めるが、低調に推移する。農産物向けの段ボールも天候不順により量は少ない。
		古紙	9月期の仕入量は、前年比で段ボール：約95±5%、新聞・チラシ：約88±7%、雑誌・雑紙・その他合わせて：約89±8%の中での推移である。先月に続き集荷が悪く、不安が募る。新聞・雑誌類の集荷が悪いのは、組合員の地元で軒先回収や24時間の無人資源回収所開設、持去り行為等により集荷形態の変化が主な原因と考えられる。伊勢・志摩サミットは明るい話題だが、三重県内の景気浮上は地域・業種が限定的になると思われる。10月に入り秋の生鮮食品の需要はあるようだが、人口減少と少子団塊世代の高齢化が年々大きな消費減少の要因となっているように思う。冬需要に期待したい。子供の人口減少と収入の増加等により、現在は少なくなったが、集団回収の新聞古紙や雑誌古紙は発生時期であるので、しっかりと対応していきたい。製鉄原料の市況を見てみると先行きは不安で見通しは立たないが、現状に感謝しながらコツコツ努力するしか道はない。
	印刷	印刷	10月5日発売の三重県民手帳がようやく完成した。来年の伊勢志摩サミット開催を記念したカバーデザインのプレミアム版は予約分だけでもかなりの反響があり、サミットPRにも微力ながら貢献できたと思う。
	窯業・土石製品	伊賀焼	9月は天候にも恵まれ、また連休があった為、遠方からの来館が多かった。またNHKのBSで土鍋やおひつの番組が再放送されたこともあり、それを目当てに訪れる客も多く、伊賀焼伝統産業会館では売上額が昨年を上回り、近年にない売上となった。また伊賀・信楽古陶館でも昨年を上回った。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は8月同様であり変化は見られない。取扱う製品の種類、メッキの種類によって減少するもの、増加するものに分かれる。半導体関連は8月後半より減少し始め、9月は更に減少してきた。本年末辺りからは徐々に増えるという観測がされているが、今のところ不透明である。
	一般機器	北勢	このところ景況の下降傾向が続いている。輸出不振、株安、中国経済不安等、不安材料が次々と出てきている。大手の一部を除き、停滞気味である。
		北勢	好調であった建築・土木関連資材の受注が、ここに来て停滞気味になってきた。
	電気機器	南勢	上期後半の追い込みがあり、少しポイントは上昇したが、まだまだ好況感がなく、下期に期待したい。
輸送機器	北勢	中国向けの部品で中国現地生産から日本国内での生産に切り替わるものを受注したが、中国国内の在庫が残っているとのことで、切り替わり開始が当初予定よりも3か月以上遅れている。他の部品でも以前に提示されていた長期計画に対して実際の注文数が減るなど、全体的に後退感が感じられる。	
非製造業	小売業	青果	野菜の前半は秋雨前線の影響で、生育が鈍く、キュウリ・ナス・トマト・ほうれん草・玉ねぎが高値であった。しめじなど、キノコ類は安価であった。後半は豪雨被害と連休のため、特にレタス・青ネギが去年の2倍以上の高値であり、全般的に品薄で高値であった。果物は長野県産リンゴが豊富に入荷し、価格も安定している。ブドウはシャインマスカット・ナガノパープルが人気である。後半は種類も豊富で長野産リンゴ、和歌山産の種なし柿、長野産巨峰、特に南紀産のみかんは味もよく価格も買い得であった。

非製造業	小売業	自転車	敬老の日を目標にメーカーと協賛でアシスト自転車の楽チンセールを行う等の独力はしたものの、昨年比15～20%の登録台数が減少した。また組合としては自転車店の活性化対策として点検・整備のリーフレット及び点検・整備カードを作成した。目的は①TSマーク貼付のための自転車整備基準を明確にしたリーフレットを渡すことにより、その制度の煩雑な説明を省ける。②点検・整備の内容等との安全整備店においても同じ説明が可能となり、店の信頼向上・TSマークの普及につなげられる。③「点検・整備」が商品（有料）であることが明確化できる。の理由で組合員が今後大いに利用してもらえるものと思われる。
		家電	この時期は夏商戦も終了し、秋から年末商戦の仕込みの時期であり、商品の動きも活発でなく、業界の需要の状況は厳しいことに変わりはない。地域電器専門店ルートでは、最需要期に備え顧客との接点活動に重点を置き、総顧客訪問活動を展開している。顧客の困りごとを解決するために、各キャンペーンの実践活動や地域ごとに秋の合同展示会を開催し、新製品の紹介や実演訴求を実施、需要の獲得に向けた取り組みを実施している。具体的には味覚の秋でもあり、訪問活動や展示会で調理家電商品、4Kテレビや家まるごとリフォーム需要の獲得のための情報収集活動をすすめている。
		石油	9月度については、8月の天候と違って気温低下と悪天候の影響により、ガソリン販売数量が大きく減販状況に転じた。中旬には大型台風の影響もあり、全国的に燃料油販売に厳しい状況であったが、後半シルバーウィークの期間天候も回復し、ガソリン販売も幾分順調な状況により、県内の燃料油販売状況は前年対比100%前後となったが、市場販売価格競争の影響により中々収益が改善しない状況であった。
		スポーツ用品	9月は県内各地で運動会があり、組合員は忙しくしていたようである。地区内の学校から物品購入の為の見積もり依頼が多く、年末に向けて売上が増加する可能性がある。
サービス業	商店街	熊野	商店街にて毎月開催の朝市イベント「熊野いこらい市」にて、今月より11月までの3回開催に限り、国の地方創生資金を利用した地域振興券「いこらいスーパーお買物券」を発行した。お買物券は1,000円で300円券4枚綴りの1,200円分で購入でき、200円お得である。今後の消費の拡大を目指していく。ただ今月開催日の第4日曜日は市内各地で運動会が数多く開催された為、集客数は普段より若干少なかった。ただ客単価は普段より高いようで、お買物券利用の成果と考えられる。10月は市合併10周年記念事業が商店街の会館内にて開催されることで更なる集客に結び付ける予定で現在調整中である。
		旅館	シルバーウィークは天候にも恵まれ、県内各地とも好調な出足で満館の日が数日続いていた。しかしこの様な大きな山があると、前後が谷間になり、閑散としている日も数日あった。9月全体では今年雨が多く、大きな災害もあり、旅行動機に水を差されるような中であって、昨年並みの集客があったことは見通しは明るいように感じる。
建設業	サービス業	飲食業	平成29年4月実施予定の消費税10%までの引上げと並行して、導入が検討されている軽減税率について、全国団体をはじめとする生活衛生飲食関係組合では「飲食品」を対象となるよう、これまでに求めてきている。最近の報道等ではマイナンバー制度を活用した一定の金額を上限とする還付制度導入や、消費者への負担を軽減する案が政府内で議論されているところであるが、組合として事業者の事務負担のない制度が運用されるよう要望しているところである。
		内装工事業	前月まで続いていた売上等の好調な状況が一息ついたのか、9月は前年対比が減少となった。年末に向けてどういう流れになるかは予断を許さない状況である。
運輸業	建設業	水道工事業（北勢）	9月に関しては特段大きな変化は見られないが、人手不足の傾向は続いていると感じられる。
		トラック	前年の同時期に比べて荷動き、輸送量が若干ながら増加した。燃料の軽油価格も前期に比べて低い水準にあり、収支改善に繋がっている状況であった。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今後TPP等により、小麦価格の動きが懸念されるが、前向きに取り組んでいく。
一般機器	北勢	政府はいいことばかり言っているが、本当にやるべき抜本的経済対策がなされていない。
	南勢	消費税率の上昇（8%から10%）時は、複雑な制度とならないよう、また中小企業のコスト負担増加とならないよう配慮願いたい。
サービス業	旅館	伊勢神宮の式年遷宮の年には近県の関係者より、「伊勢方面は道路も旅館も大混雑で大変なので、こちらへいらっしやい」と悪宣伝をされたこともあり、来年の伊勢志摩サミットも鉄道・道路事情は様々な噂が始めている。早急にデマを打ち消すような情報発信をお願いしたい。
運輸業	トラック	長時間労働改善の為にも高速道路の渋滞解消対策及び通行料金の更なる引下げを要望する。